

事業 時期	DPAT	日赤こころのケアチー	北海道こころのケア	あそびのひろば	個別支援	リラクゼーションルーム	こころのアンケート	啓蒙・情報提供	人材育成
	H30.9.8~14	H30.9.6~10.30	H30.9.15~	H30.9.13~	H30.9~	H30.11~	H30.11~	R1.8~	R1.11~
頻度	相談・訪問2件		子どもの心のケア H30.9.17~ H31.3.31	2地区で開設		H30.2地区各5回 H31.2地区各7回	H30.6回 H31.10回	広報2回 パンフレット1回 健康教育1回	民生委員2回 9地区健康教育
	精神疾患患者の症状悪化予防 PTSD症状への相談事業	避難所内でのこころの相談	PTSD症状への相談事業 支援者支援(面談、講話、ステッカー)	遊びを通した子どもの心のケア 保護者の子育てや震災後の子どもの心のケアなどの相談、マッサージの提供	保健師・臨床心理士によるハイリスク者訪問、電話等支援の実施 高齢者実態調査、地域ミーティングなど日常の保健活動からハイリスク者抽出、支援	北海道臨床心理士会によるリラクゼーションルーム開設し、茶話会、心理教育、相談実施 避難所、仮設住宅談話室(H30~R1毎月)、保健センター等(R1.2回、R2~毎月) がん検診(H30.11~)	健診問診票にアンケート同封し、健診時に回収。集計、ハイリスク者抽出し支援につなげる H30 421人 R1.6-7月 845人 R1.10-11月 572人 R1.11-12月 103人	R1.8・R2.3 広報あびら掲載 R2.3 こころのパンフレット作製・配布 308件 R2.1 自治会健康教育	R1.9・R1.11 民生委員協議会健康教育 R1.11-R2.2 地域ミーティング健康教育 9か所

- ①一人であることに対する過度の不安
- ②不眠
- ③過覚醒症状
- ④食欲低下
- ⑤地震被害で出費があり、今後の生活に経済的不安
- ⑥飲酒量増加

ハイリスク者抽出・コンサルテーション

町・保健所保健師・臨床心理士

事後カンファレンス	H30	2回	421人
	R1	3回	1520人
アンケート(SQD)ハイリスク者	H30		63人
	6-7月		84人
	10-11月		53人
	11-12月		13人

要支援者カンファレンス R1:5回 町・保健所 保健師・臨床心理士(状況に応じて)

(家屋状況を踏まえ検討)

支援区分別人数 (初回)	R1	①	②	③	④	⑤	⑥
	A	0	0	1	0	0	0
	B	318	4	1	20	0	0
	C	0	0	0	1	0	0
	D	0	0	0	0	0	2
	E	0					

メンタルヘルス要支援者台帳管理 R2.2 426人

★ハイリスク者支援区分

支援方法	支援内容・担当
A要医療	①ほっとる一む
B要支援	②臨床心理士会
C継続支援	③町保健師
D経過観察	④町包括支援センター
E終了	⑤保健所
	⑥情報提供

支援内容

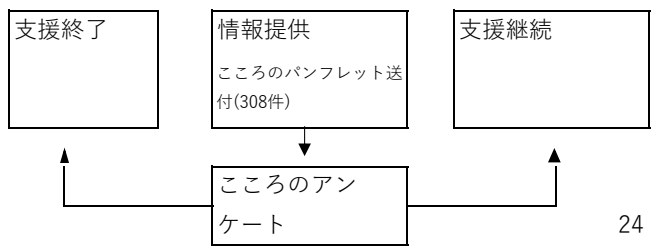
受診調整	こころの相談 北海道臨床心理士会 臨床心理士による訪問、来所相談	ほっとる一む R1.10 11人 R2.2 19人	訪問	電話	通常の保健活動
------	-------------------------------------	---------------------------------	----	----	---------

事後カンファレンス R1:4回 町・保健所 保健師・臨床心理士(状況に応じて)

支援内容の共有、今後の支援方針の検討

処遇検討

支援区分別人数(カンファレンス後)	R1	①	②	③	④	⑤	⑥
	A	0	0	0	0	0	0
	B	2	2	36	34	27	0
	C	0	0	2	7	0	0
	D	0	0	0	0	0	0
	E	1					



支援区分別人数(支援後)

R1	①	②	③	④	⑤	⑥
A	0	0	2	0	0	0
B	0	0	0	1	0	0
C	0	0	2	17	0	0
D	1	0	0	0	0	5
E	28					